

「NEO 古典主義－再生する日本古典文学の世界－展」実施報告について

- 1 開催期間：2026 年 4 月 25 日（土）～6 月 28 日（日）
- 2 開催場所：町田市民文学館ことばらんど 2 階展示室
- 3 観覧者数：2,060 人／55 日間（1 日平均：38 人）
（有料観覧者：1,332 人／無料観覧者：728 人）
- 4 協力：偕成社、KADOKAWA、講談社、青幻舎プロモーション、
パイ インターナショナル、ヤマムラアニメーション、
県立神奈川近代文学館／公益財団法人神奈川文学振興会
- 5 開催報告

町田市民文学館では開館 20 周年を記念して企画展「NEO 古典主義－再生する日本古典文学の世界－展」を開催しました。

本展覧会は、「古事記」「万葉集」「源氏物語」「枕草子」「小倉百人一首」といった世界的に認知される日本の代表的古典文学作品を基に、現代作家が創作翻案・再構築した小説や絵物語、絵本や漫画、イラスト、アニメーションで振り返るテーマ展です。これらの作品を通して幅広く「古典文学」への興味関心を再喚起し、古典を楽しく学び直す機会となることを目指しました。

会場には 7 名の現役アーティストの作品を、原典の成立年代順にコーナーを設けて配置しました。各コーナーは出品作家の作品の特徴を捉えて構成し、作品鑑賞が単調にならないよう展示空間全体を通じて「古典文学」が体感できるように努めました。

本展のために描き下ろされた石黒亜矢子氏によるメインビジュアルは好評を得て、何が描かれているのか「絵解き」を楽しむ姿や、会場内に設けられた撮影スポットで記念撮影をする来場者の姿が見受けられました。

来館者からは「学生時代は仕方なく勉強させられている感覚でいたためかほとんど記憶に残っていませんでした。こんなにも素晴らしい文化が根付く国だったかと感動しました」等、「古典」への印象を覆し、新たな古典体験への糸口となるという声が多く寄せられました。

(1) 関連事業

実施日	タイトル	参加人数
4月26日	オープニング記念トーク たられば（編集者）×渡辺祐真（書評家） 読み継がれる「ものがたり」―NEO 古典主義とは何か	74 人
5月6日	映画上映会「おーい、応為」	75 人
5月17日	文学講演会 町田康（作家） 「今は昔 日本語のこだまを聴く―古典文学のなかのリアル」	70 人
6月5日	落語&トーク 桂竹千代（落語家） 「落語で聴く！効く!!古典文学まるわかり！」	112 人
6月13日	折本ワークショップ 植村愛音（造本家） 「マイご朱印帳を作ろう！」	17 人
4月25日	担当学芸員による展示解説	50 人
5月27日		64 人
6月28日		33 人

(2) 資料

自筆原稿、絵本原画、漫画原画、絵本、イラストレーション、
アニメーション作品等 約 200 点

(3) パブリシティ

- ・毎日新聞、神奈川新聞に展覧会情報が掲載されたほか、偕成社や福音館など出版社の紹介サイト、イッツコムの取材がありました。
- ・出展者のこうした史代氏、山村浩二氏、今日マチ子氏、長崎訓子氏、横山裕一氏等の Instagram をはじめとする積極的な SNS 発信のほか、メインビジュアルを担当した石黒亜矢子氏の熱心なファンの姿が目立ちました。

（４）来館者アンケート

年代は 50 代が 22.6%、60 代が 21.1%と高く、次いで 40 代（15.5%）、70 代（12.7%）となり、40～60 代が約半数（59.2%）を占めました。

居住地では町田市が 36.1 %と最も高く、次いで東京都 18.1%、相模原市 14.3%と市内及び都区内、近隣市域からの来館者が目立ちました。

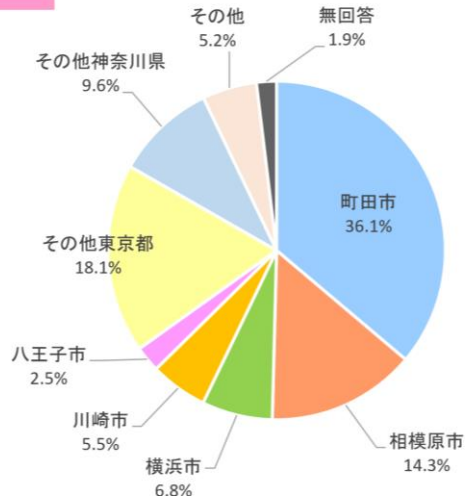
来館回数は、はじめての来館者が 43.4%の割合を占め、4 回以上のリピーター 39.3%と、企画内容に惹かれてきた初来館者が最も多く、次いで日頃から当館の活動に関心をもっている来館者層が足を運んだと推測されます。

広報媒体ではポスター・チラシが 46.3%で、テーマの内容を端的に表現し、且つ訴求力のある石黒亜矢子氏の本展のための描きおろしビジュアルが好評を得ました。

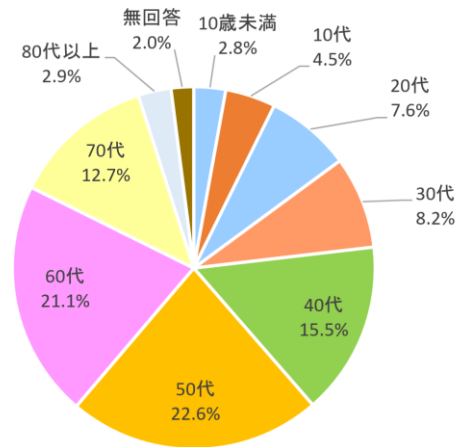
来場者の 87.1%の方から「大変満足・満足」の評価をいただき、本展によって、古典文学の翻案・再解釈という新しいジャンルに挑戦することができたと感じています。

【集計結果】

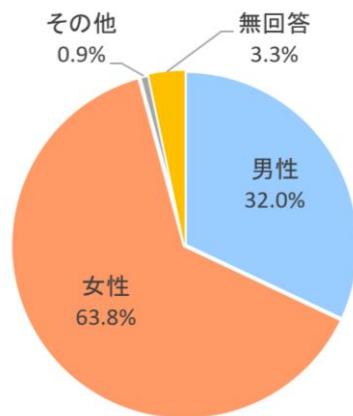
居住地



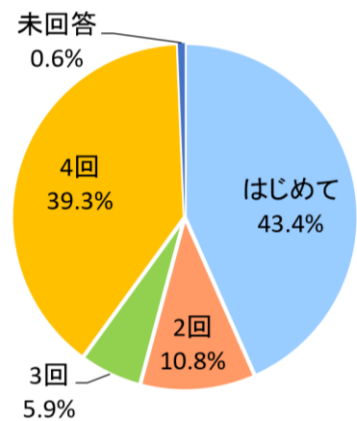
年代



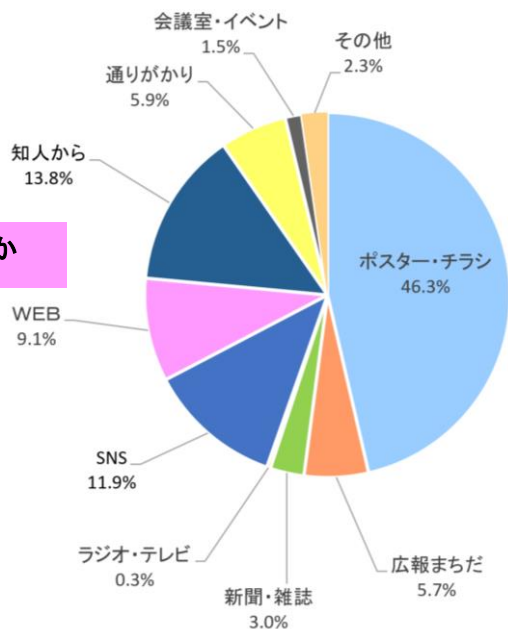
性別



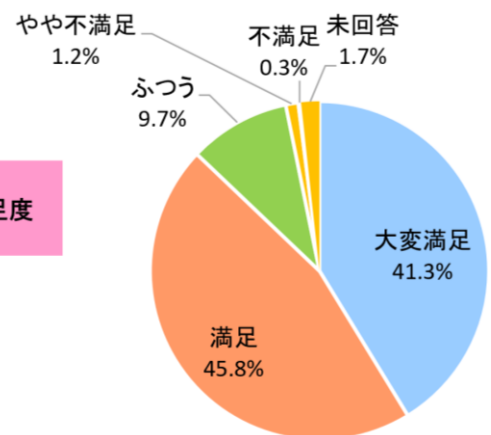
来館回数



何で知ったか



企画展の満足度





(左上から下に)会場入口 こうの史代「ほおるべん古事記」
 今日マチ子「西人一首ノート」、【第四章 橋本治の仕事】
 (右上から)【第一章 古事記】【第二章 万葉集】
 【第五章 再生する古典文学】 ※「」は作品名 【】は章タイトル